

A woman wearing a white headscarf with purple floral patterns and a black cardigan over a pink dress is leaning over a table, looking at papers. To her left, a young boy in a white sweater and jeans holds a green pencil. To her right, a young girl in a blue and white checkered shirt is writing on a piece of paper. The background shows a wall with various educational posters and a bulletin board.

# アジア太平洋地域における ジェンダー・ トランスフォーメティブ・ プロジェクト

学びと経験





## 背景

プラン・インターナショナルはジェンダー・トランスフォーマティブ(GT)な変革に全力で取り組んでいる。現行のグローバル戦略「立ち上げられ、女の子たち!」(2022~2027年)でも、プラン・インターナショナルが重点的に取り組むすべての活動分野(AoGD)および活動するあらゆる文脈において、GTアプローチを用いたプログラムとアドボカシー活動・実践例に基づいた取り組みの強化に重点を置いている。また、ジェンダー平等の実現に向けた社会変革を目指す各国のプロジェクトの設計・実施・評価を支援するため、プラン・インターナショナルの全職員が活用できる主要ツールとしてジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカ―(GTM)が開発された。

## 全体目標

全体目標は、アジア太平洋地域(APAC)におけるプラン・インターナショナルのGTプロジェクトを文書で記録し、プロジェクト設計・実施・評価に関するこれまでに得た知見について各活動国統括事務所と議論することである。プロジェクトをどのように強化すれば、ジェンダー平等達成に向けた変革力を高め、GTな具体的成果につなげることができるかに関する議論も、そのひとつである。

- (開発・人道支援プロジェクト)を実施中のコミュニティでGTアプローチを用いることで、GTな変化と包摂性の向上がどのように進んでいるかを議論する
- GTMを用いることでGTな変革に向けた各プロジェクトの可能性を予測できるかを議論する
- 好事例となるエビデンスを特定・収集してGTプログラムの開発に活かし、社会変革がどのように起きるかについて部門内の批判的考察を促進する

## 調査方法

APAC内の各国別統括事務所(CO)に対し、各COがGTMを用いたGTであるとする開発・人道支援プロジェクトを1件挙げ、特にGTMを複数回用いたプロジェクトを優先するよう求めた。試験段階では、開発プロジェクト3件、人道支援プロジェクト2件が選出され、計5件のプロジェクトが検討対象となった。各COのジェンダー平等・包摂(GEI)顧問および関連プロジェクトに従事する職員とのオンライン協議が2回実施された。協議では、どの程度GTであるか、また、促進要素と直面している課題を中心に質問が行われた。2回目の協議は、確認された成果・指標・GTな取り組みを継続するための戦略が中心となった。GT報告の最終レポートは既に当該COの認証を受け、主な調査結果と学びが今後地域レベルで提示される予定である。

| # | プロジェクト名                                                                                    | CO      | 分類              |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----------------|
| 1 | 女の子のリーダーシップ・プロジェクト フェーズ1: Girls Lead: カンボジアでのジェンダー平等の実現に向けて学び・共有・創造・先導できるよう、女の子とユースを能力強化する | カンボジア   | 開発              |
| 2 | Anakhot Khong Khoi 2 - My Future 2                                                         | ラオス     | 開発              |
| 3 | Urban Nexusフェーズ2、インドネシア(疎外されたユースの主体性を高め、機会を創出する)                                           | インドネシア  | 連動<br>(人道支援・開発) |
| 4 | 台風Raiの緊急対応における性と生殖に関する健康(SRH)の人道的ニーズと優先事項                                                  | フィリピン   | 人道支援            |
| 5 | コックスバザールのミャンマー国民強制移住者(FDMN)キャンプと受入コミュニティに暮らす思春期の男の子とユース男性を対象としたライフスキル教育・エンパワーメントプログラム      | バングラデシュ | 人道支援            |

プラン・インターナショナルでは、プログラムとアドボカシー活動にGTアプローチを取り入れて開発したプロジェクトを、GTプロジェクトとしている。プラン・インターナショナルのAOGDsにわたるあらゆる活動において、GTの要素を客観的視点で反映し、完全にGTで包摂的であること、そして現行の体制と力関係に挑み、将来の社会変革につなげること - それが、プラン・インターナショナルの目指すビジョンである。

# Girls Lead: カンボジアでのジェンダー平等の実現に向けて学び・共有・創造・先導できるよう、女の子とユースを能力強化する

国: カンボジア

予算: 257万8,014ユーロ

期間: 2017年9月1日～2023年2月28日

### プロジェクト概要:

「Girls Lead」プロジェクトは、プラン・インターナショナル・カンボジアが257万8,014ユーロを予算として、2017年9月1日～2023年2月28日の5年間に、カンボジアのシェムリアップ州・ラタナキリ州・ストゥントレン州にある12郡内52コミュニティで開発プロジェクトとして実施された。女の子とユース女性(12～24歳)が社会開発とジェンダー平等に向けた変化の担い手となるためには、彼女たちを能力強化する必要があるという考えの下、同プロジェクトは彼女たちに学び・共有・創造・先導する機会を提供することを目指し、保護者・コミュニティ・政府の意思決定者らの支援を得て達成された。全体目標として以下を掲げた: 思春期の若者とユース、特に女の子とユース女性がジェンダー平等を前進させるために集団行動を起こし、あらゆるレベルでの公的な意思決定における発言権を高める。

### 反映されたGTの要素:

同プロジェクトには、以下に示すGTの要素が組み込まれている。

- **ジェンダー規範:** 同プロジェクトは、女の子の可能性を制限する有害なジェンダー規範に積極的に挑んだ。(Wound Care Collaborative Community・Commune Committee for Women and Children (CCWC)・村長・保護者といった)主な関係者を、世代間・州レベルの対話に関与させ、ジェンダーに基づく役割を変える、女の子の参加とリーダーシップを支援する、等の規範変革を促した。ジェンダーと包摂に関するユース女性ジャーナリストの能力構築等の形でメディアが関与したことで、こうしたメッセージを広く伝えることができた。子どもとユースのネットワークであるCAN・AYRG・CYLNが政府の意思決定者と連携して行った全国レベルでのアドボカシー活動により、ジェンダー規範に対する同プロジェクトの影響力が高まった。進展: ジェンダー・アウェア(ジェンダー平等と包摂に貢献する可能性: 中レベル)からGT(可能性: 高レベル)に前進。
- **主体性:** 同プロジェクトはチャンピオン・オブ・チェンジ(CoC)モデルによって、女の子の主体性を著しく高めた。その結果、彼女たちの自信・自己肯定感・批判的思考力が育まれた。彼女たちとそのネットワークは「Bell Sound」等の取り組みの主導と少額助成金の管理に加え、様々なレベルで先頭に立って対話を促した。「Girl Takeover(女の子たちが様々な地位にある人々の役職・地位を一日体験してリーダーシップと発揮できる社会の実現に向けた提言をする)」活動は彼女たちのリーダーシップを発揮する場となった。進展: ジェンダー・アウェア(可能性: 中レベル)からGT(可能性: 高レベル)に前進。
- **男の子・男性との取り組み:** 同プロジェクトは男の子と男性も巻き込んで行われたが、結果はジェンダー・アウェアレベルに止まった。CoCの男の子向けモジュールは、ジェンダー平等と女の子の権利に関する彼らの意識と知識を高めた。家庭内暴力を容認する態度が少なくなる、ジェンダー平等に対する考え方と行いが変わって役割や意思決定を共に担う意識が芽生える、早すぎる結婚(児童婚)と女の子の中途退学への対応を含めた、ジェンダー平等と女の子の権利促進に向けた女の子の取り組みを支援する、等の前向きな結果が得られた。



- 状況と社会的地位:** 同プロジェクトは女の子とユース女性の状況と社会的地位を大幅に改善した。彼女たちは子どもクラブやネットワークでリーダーを務め、少額助成金を管理し、プロジェクト活動を主導した。(CCWC/ PWCC・カンボジア教育/ユース/スポーツ省(MoEYS)・カンボジア子どものための国民評議会(CNCC)といった)主な関係者と共に意思決定に参加する機会が増えたことで、現地での社会的地位と影響力が高まった。先住民族の女の子とユース女性は、コミュニティの女性・子ども委員会のメンバーとして地域を代表して、国家レベルに影響を与える懸念事項や課題を提起した。進展: ジェンダー・ニュートラル(可能性: ないか、あってもごくわずかなレベル)からGT(可能性: 高レベル)に前進。
- 包摂と多様性:** 同プロジェクトでは、障害を持つユース・LGBTIQに属するユースはもちろん、貧困家庭および先住民族コミュニティに暮らす疎外された女の子とユースも対象として包摂に優先的に取り組んだ。先住民族の女の子は子どもとユースクラブのリーダーとしてクラブ活動を主導し、少額助成金活動やBell Sound活動を実施することで、現地の意思決定者と対話し、彼女たちの問題に対応するよう働きかけた。職員が民族の言語に堪能だったことで効果的なコミュニケーションと積極的な働きかけが可能になった。進展: 中レベルから高レベルに前進。
- 実現に向けた環境づくり:** 同プロジェクトは、準国家・国家レベル(CNCC・MoEYS・女性問題省(MoWA)・Cambodian Women's Crisis Center・CCWC・国連特別報告者)の関係者を巻き込むことで、規範の変革と女の子のリーダーシップの促進を可能にする環境をつくり出した。ユース主導のネットワークは、関係者との対話や子どもの権利条約・子どもに対する暴力を防止する国の行動計画の実施状況のモニタリングを行う際に支援を受けた。同プロジェクトの影響は国家レベルにまで及び、MoWAが全国女の子のリーダーシッププログラムの実施へと動き、CoCモデルやGirl Takeoverを導入し、国際ガールズ・デーを国家行事として祝うようになった。進展: ジェンダー・アウェア(可能性: 中レベル)のまま。

### プロジェクトの具体的な成果と好事例:

同プロジェクトは、男の子と女の子を含めたユースが児童婚/性的虐待/性暴力を含むジェンダーに基づく暴力(GBV)を容認しなくなる、変化の担い手としてユース、特に女の子とユース女性に対する信頼が高まる、そして女の子の自信と共に、教育を続け将来リーダーとなる夢を抱いてその機会を追求する意欲が著しく高まる等、目覚ましい成果を達成した。保護者もユースの参加とジェンダー平等、特に彼女たちがコミュニティ変革の先頭に立つことへの支持を強く示すようになった。政府関係者は、子ども/ユースクラブが、能力強化とユース女性リーダーを含めた将来のリーダー育成の場となって、大いに貢献していることを認めた。

CoCモデルの有効性・世代間/州間で行われる対話の価値・ユース主導の取り組みに向けたエンパワメント・メディアとの戦略的連携・包摂への揺るぎない注力といった好事例がいくつかみられた。個人レベルの変化の積み上げが持続可能性を高め、子ども/ユースクラブを継続的に支援するなかで、国の新たな女の子リーダーシッププログラムは生まれる。同プロジェクトは、現地の強力な連携関係と、コミュニティ指導者の支え、職員の献身によって支えられた。

### 促進要素と課題:

Girls LeadプロジェクトがGTな成果を得る過程には、成果を促進する要素とともに課題も見受けられた。主な促進要素としては、現地組織との強力な連携関係が挙げられ、それにより、現場で有益な専門知識とコミュニティとのつながりが得られた。またコミュニティリーダーの支えも非常に重要で、女の子のエンパワメントを後押しする前向きな環境をつくり出した。また、効果的な実施とモニタリングには、プロジェクト担当職員の献身と取り組みが不可欠であった。

だが、同プロジェクトはいくつかの課題にも直面した。計画されていた活動、特に重要なCoC訓練研修会がCOVID-19パンデミックによって実施できなくなり、プロジェクトチームは対応策として、その代替手段を探さなければならなかった。また、CoCモデルや他のプロジェクトを現場職員にまで展開するための専門的サポートが限られていたことも課題だった。サポート不足の影響で、プロジェクトの質と実施に場所によるバラツキが生じた可能性もある。今後、GTプロジェクトの社会的影響力を最大限に高めていくには、こうした課題を解決できるかどうかが鍵となる。

## 提言:

こうした経験に基づき、いくつかの提言が出された: CoCモデルの強化・政策対話への女の子の関与の促進・特に子どもとユースクラブのモデルではユース女性のネットワークの強化・戦略的なメディアの関与・長期的な持続可能性の実現に向けた資源・人材活用・記録の徹底と知見の共有。それらは、今後のプロジェクトに反映してGTプロジェクト開発に貢献する上で、極めて重要である。

# Anakhot Khong Khoi 2 – My Future Phase 2



国: ラオス

予算: 342万ユーロ

期間: 2022年1月1日～2025年12月31日

## プロジェクト概要:

My Future 2という名で知られるAnakhot Khong Khoi 2(MBMF2)は、ラオス国内の子ども・思春期の若者・ユース(CAY)の性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する知識不足と、権利が著しく制限されている実態に取り組むプロジェクトで、特に社会的・経済的に困難な状況下にある集団に焦点を当てている。

同プロジェクトは、質の高いSRHRサービスへのアクセスを向上し、社会に広がる有害なジェンダー規範に挑み、CAYが自身の身体と将来に関して情報に基づく意思決定を行えるよう能力強化する必要性が明白なことからスタートした。ジェンダー不平等が根強く必須サービスがほとんど利用できない状況下で、同プロジェクトは社会変革につながる環境づくりを目指し、CAYの自信構築・包摂的でジェンダーの視点に立ったSRHRサービスへのアクセス向上・CAYを支える安全なコミュニティづくり・政策提言でのユースの声の強化をプロジェクト目標として掲げた。

同プロジェクトは、障害を持つ者・LGBTIQ+に属すると自認する者・少数民族に属する者・経済的に不利な立場にある者など多様な集団を対象として、包括的性教育(CSE)・ユースクラブへの支援・保健医療従事者向け研修・コミュニティ対話・政策提言・市民社会組織(CSO)の能力強化等を中心に活動を展開した。

## 反映されたGTの要素:

- **ジェンダー規範:** MBMF2プロジェクトは、深く根付いたジェンダー規範がユースのSRHR実現の大きな障害になっている場合が多いという認識に立ち、こうした規範への積極的な挑戦を戦略の中心に位置づけた。コミュニティ対話・共同調査活動・戦略的なメディアの関与により、同プロジェクトは批判的考察と議論の場を創出し、たとえば未婚の女の子がコンドームを携帯することを許容するようになる等、教師の意識に目に見える変化が生じたと報告されている。具体的には、2024年のモニタリングデータによると、未婚の女の子のコンドーム携帯を受け入れる教師は、プロジェクト開始前の57%から88%に上昇。また、コミュニティ指導者もSRHRを支援する姿勢を強く示すようになり、「指導者が思春期の若者とユースのSRHRについて発言し、支援している」と感じている思春期の若者とユースの割合は、2022年の48%から2024年には70%に上昇した。こうしたデータは、根強い規範の変革に同プロジェクトが奏功していることを裏付けている。





- 状況と社会的地位:** 同プロジェクトは、学校のSRHR関連教材やプライバシーを最優先したユースにやさしい保健医療センターサービス等の必須リソース/サービスへのアクセス向上という形で、女の子と女性の差し迫ったニーズと共に、彼女たちの将来的な社会的地位への取り組みを図った。障害を持つ女の子に特有のニーズに対応した職業訓練を提供して経済的機会を拡大させた。また、特に少数民族の集団のなかで啓発と包摂を促進することで、社会的偏見に挑み、女の子とユース女性の社会的地位向上に取り組んだ。
- 主体性:** MBMF2では、女の子とユース女性の主体性の向上による彼女たちのエンパワーメントをプロジェクトの柱とした。学生・ユースクラブは、ユースが自信・リーダーシップ・意思決定能力を高める安全な場となり、能力開発活動とピア・ツー・ピア講習会を通して、彼らは自身の権利のために主張しSRHRに関して情報に基づく選択を行つために必要なツールや知識を身につけた。同プロジェクトでは、継続的な支援に注力することで、女の子とユース女性がコミュニティの変化の担い手として成長し続けられるようにした。
- 実現に向けた環境づくり:** 同プロジェクトは、女子差別撤廃条約や経済的・社会的・文化的権利に関する国際規約の各委員会へのパラレルレポートの提出等により、国家レベルで政策改革を行うよう求めた。また、学校の衛生・給水設備や保健所施設等インフラの改善に取り組み、ユースを支える安全な空間を創出した。加えて同プロジェクトは、同国の早すぎる強制された結婚に関する調査結果を公表して、エビデンスに基づく政策立案へとつなげた。さらに、参加型のモニタリングとGBV報告の仕組みを構築することで、コミュニティの声を確実に反映し説明責任が果たされるようにした。
- 男の子・男性との取り組み:** 同プロジェクトは、学生クラブ・ユースグループ・保護者向け講習会等により、男の子・ユース男性・男性を積極的に関与させることでジェンダー平等を促進した。こうした取り組みは、伝統的なジェンダー的役割・規範からの脱却を促し、前向きな男性性・家事分担・性に関する基本的な権利(性的自由への権利等)の推進につながる。氏族長や長老などのコミュニティの重鎮を巻き込むことで、メッセージの拡散と非暴力的で前向きな男性性に対する幅広い支持の獲得を目指した。このように多面的なアプローチで個人・コミュニティレベルの両方でジェンダー平等に取り組むことで、皆にとって公平で包摂的な環境ができ、持続的な変化を生むことができる。
- 包摂と多様性:** 同プロジェクトでは、社会的・経済的に困難な状況下にある人々はSRHRを阻む複合的な障壁に直面している場合が多いことを踏まえ、多様なグループの包摂を最優先した。同プロジェクトは包摂的アプローチを採用して、多様なジェンダー・アイデンティティ・年齢・民族性・障害の有無・社会経済的背景を持つCAYの特有のニーズに対応した。それには、特有のニーズを満たすために取り組みの内容を調整し、すべての活動が必ずジェンダーを配慮した視点で行われるようにすることが必要だった。具体的には、同プロジェクトではLGBTIQ+の権利に関する情報を親業の手引きや教員向けCSE研修に上手く組み込み、LGBTIQ+に属する思春期の若者が学校・家庭環境で直面しているいじめやネグレクト等、既に報告されている問題に対応した。



### プロジェクトの具体的な成果と好事例:

MBMF2の影響は、参加者の生活に目に見える変化として表れた。ユースは自身のSRHRに関する意思決定への自信が高まったと述べ、ジェンダーステレオタイプに対する考え方にも著しい変化がみられた。同プロジェクトが成功した背景には、明確なモニタリング/評価の枠組み・(リスクを想定して事前に対策を講じる)予防的リスク管理・ユースの有意義な関与等の好事例への注力があつた。

また、プロジェクト担当職員とパートナーを対象に定期的な技術サポートと能力開発を行ったことで、確実に実施効果を上げることができた。継続的な教員研修の重要性や対話型学習手法の有効性等、プロジェクトから得た知見がプロジェクト戦略として一本化された。パートナーと強固な関係を築き、文化に配慮した戦略を実施したことで、同プロジェクトは持続的な変化の土台を確立することができた。

## 促進要素と課題:

MBMF2を実施するなかでは様々な困難に直面した。(農村間・都市への)人口移動がすすむなかで不就学のユースを関与させるのは難しく、ユースクラブへの男性の低参加率についても斬新な解決策が求められた。また、SRHR関連用語の現地語への翻訳や行政の複雑な手続きも障壁となった。だが、CSOや政府機関との強固な連携関係やGTM等のツール活用により、こうした問題は克服された。プロジェクトチームの尽力と適応力、そして学びと改善をひたむきに求める姿勢が、プロジェクトを動かす大きな力となった。いくつかの障壁には直面したが、同プロジェクトの成果により、GTアプローチの有効性が浮き彫りになった。



## 提言:

同プロジェクトが社会にもたらした好ましい影響を持続・拡大していくには、ジェンダーに関する指標の継続的なモニタリングとコミュニティ・ユースと連携した行動計画の策定を最優先で行うことが望ましい。メディアの関与を増やすことでSRHR問題への関心を引き起こし、その一方で継続的な政策提言を行うことで、ジェンダー平等への息の長い取り組みが可能になる。スキル開発による女の子とユース女性のエンパワーメントと、男の子と男性を対象とした啓発活動の拡大も必須である。疎外された集団が直面している社会的地位の格差に対応し、彼らを排除する複数の要素について考察していくことが、包摂性の向上につながる。同プロジェクトの成果を基盤に、保健サービス提供者の能力強化とインフラ整備の継続が望まれる。リスクを想定した対策の強化と、意見を聴く仕組みの改善が、今後のプロジェクトが社会全体に与える影響力を高めることとなる。

## Urban Nexusフェーズ2、インドネシア (疎外されたユースの主体性の向上と機会創出)

国: インドネシア

予算: 66万7,045ユーロ

期間: 2022年7月1日～2025年6月30日

## プロジェクト概要:

Urban Nexusフェーズ2は、都市コミュニティに暮らすユースが能力を高めリーダーシップを発揮することで、気候変動に対するレジリエンスの高い健全で安全な環境を創出するための取り組みとして、Yayasan・プラン・インターナショナル・インドネシアの主導の下、Muhammadiyah災害管理センター(MDMC)とTeens Go Green Indonesia(TGGI)が提携して実施した。同プロジェクトは、ユース、特にユース女性と障害を持つ者を重点的に、彼らが災害リスクの低減と気候変動への適応の取り組みでリーダーとなるために必要な力を身につけることを柱とし、そこに全力で取り組んでいる。

レジリエンスの高い環境と防災に関する知識と実践的スキルを高める、ユースのリーダーシップと主体性を育む、ユースの有意義な参加に政府のお墨付きを得る等のニーズが明白になるなかで、それに対応してスタートしたのが、このプロジェクトだ。参加者が年間約7,000人に上る同プロジェクトでは、ピア・ツー・ピア学習ネットワークの構築・リスクに関する学習リソースのデジタル化・ユース主導のリスク低減計画の促進・ゴミ処理の強化・人道支援システムとユースの連携強化・政府の意思決定プロセスにおけるユース関与の定着・社会保障データ管理の改善等、多様な戦略的取り組みが実施された。



## 反映されたGTの要素:

- **ジェンダー規範:** 同プロジェクトは、ジェンダー不平等を生み続ける伝統的なジェンダー規範、特にゴミ処理や早期警報システムの管理等、気候変動・災害・環境問題をめぐる家事労働に存在するジェンダー規範の解体を積極的に図った。同プロジェクトは、家事労働は女性が担うものだというジェンダーに基づく労働分担を背景に、女性が広くコミュニティ・経済活動に参加できていないという認識に基づいている。公平な労働分担の概念を広め、女性がネットワークを築きスキルを身につける機会を提供することで、同プロジェクトは社会に根づいた規範への挑戦と変革を目指した。プロジェクト対象地域で実施されたジェンダー分析から、大抵は男性が家長と見なされ、家事を担うのは圧倒的に女性が多いことが判明し、そうした認識を変えるためには、焦点を絞った取り組みが必要になったことが明らかになった。
- **状況と社会的地位:** 同プロジェクトは、災害リスク軽減・気候変動への適応策・都市部のレジリエンスに関する情報・施設・能力開発の機会・意思決定プロセスに対する女の子と女性のアクセスを向上させることが、彼女たちの状況改善につながることをはっきりと示している。こうしたエンパワーメントを組み込んだプログラム設計を行うことで、ユース女性が定例会議や村の開発計画に有意義な形で参加できるようになる。彼女たちは現在、都市部のレジリエンス構築の取り組みで変化の担い手という社会的地位を得つつあり、村・都市レベルでの部門横断的な調整会議に参加して災害・環境・気候変動に対するレジリエンスに関する不安を訴えることで、彼女たちの発言権も高まりつつある。加えて、同プログラムを通してインドネシア政府の気候変動対策との連携と、健康的な暮らしと緑豊かな環境づくりがすすみ、女性の参加は社会に確固たる前向きな影響を与えている。
- **主体性:** Urban Nexusフェーズ2は、特にユース女性と障害を持つユースの主体性の強化に重点を置いた、ユースのエンパワーメントをプロジェクトの柱としている。同プロジェクトは気候変動対策とレジリエンス構築でリーダーシップを発揮する機会を提供して、こうした疎外された集団が意思決定プロセスに積極的に参加し、ユース、特に女の子が、アドボケイト・活動家・キャンペーン実施者・ファシリテーター・発言者等、様々な役割でコミュニティの発展に貢献できるようにした。同プロジェクトは、彼らの影響力とリーダーシップを育むことで、彼らの自己効力感を高め、変化の担い手となる道を創出しようとしている。具体的には、気候変動対策と防災に関連する291の活動で129名のユースリーダーを支援。さらに、障害を持つ人びと141名も活動に参加させ、ユースが活用するためのシード資金として2億7,500万インドネシアルピアを提供した。これらのデータから、同プロジェクトがこうした集団の主体性の向上に注力していることがわかる。
- **男の子・男性との取り組み:** 同プロジェクトは、伝統的に女性が行うものとされてきた活動をユース男性と男性にも積極的にさせることで、ジェンダー平等と前向きな男性性の促進に成功した。男の子と男性は、縫製や家庭ゴミの処理等、今までほぼ女性が担ってきた「家事労働」をすることで、前向きな男性性を受入れてジェンダー平等を推進した。また彼らは、(女性だけでなく)コミュニティの役に立とうとする姿勢も示すようになった。同プロジェクトは、ユース男性に女性のリーダーシップを支え、意見を尊重し、ゴミ処理等のコミュニティ活動を分担するよう促すことで、ジェンダーステレオタイプを打破し、両ジェンダーが平等にコミュニティの発展と環境保全に貢献する、包摂性の高い環境を育んでいる。
- **包摂と多様性:** 同プロジェクトは、多様な集団が参加とエンパワーメントを阻む複合的な障壁にしばしば直面していることを踏まえ、疎外されたユースの包摂に優先的に取り組んでいる。同プロジェクトは、ユース女性や障害を持つ者を含むあらゆるユースがプロジェクト活動に平等に参加して便益を受けられるよう注力している。同プロジェクトは、ユース参加者にユース女性が必ず含まれるよう、ジェンダーバランスを非常に重視し徹底している。  
さらに、障害を持つユース参加者の徹底した追跡調査も、包摂に関するこのプロジェクトの戦略を際立たせている。2023年度は、ユース参加者全体の59%がユース女性であり、120名の障害を持つユースが参加。2024年度は、ユース参加者全体の61%がユース女性であり、121名の障害を持つユースが参加した。聴覚・視覚障害を持つユースがeラーニング教材開発に対する意見を提供することで、聴覚・視覚障害を持つユースも確実に参加できるようにしている。また同プロジェクトでは、手話通訳者や包摂的な宿泊施設等、障害を持つ参加者がプロジェクト活動をする上で必要なサポートも確実に受けられるようにしている。

- 実現に向けた環境づくり:** 同プロジェクトは、戦略的連携関係と提唱活動により、ジェンダー平等とユースの参加の実現に向けた環境づくりに取り組んでいる。同プロジェクトは様々な政府機関やCSOと協働して支援的な政策と実践を推進すると共に、ユースの意見を傾聴し、考慮するよう、政府の意思決定プロセスに彼らが意味のある形で参加するための提唱活動を行っている。加えて同プロジェクトは、社会保障データ管理を強化し、エビデンスに基づく政策立案とサービス提供の改善に貢献している。さらに、Urban Nexus フェーズ2では、ユース向けeラーニングプラットフォーム「GenTa(災害にレジリエントな世代)」を様々な組織やユースコミュニティ、機関等と連携して開発し、政府ウェブサイト(国家防災庁管轄)の最適化も進めている。2024年度はGenTaのユース登録者数の目標を750名としていたが、年度末に同プラットフォーム上で実施された「緊急事態下のGBV講座」のユース受講者数は758名だった。プラン・インターナショナル・インドネシアは緊急事態下におけるインドネシアの教育のユース・アンバサダーとも協力し、同プラットフォーム上で「緊急事態下での教育」講座を開発。2025年度中間時点で、GenTaへのユース登録者数は1,900名に達している。



### プロジェクトの具体的成果と好事例:

同プロジェクトは、都市部の思春期の若者とユースのレジリエンス強化・ユース、特に障害を持つ者を含む女の子とユース女性のリーダーシップ強化・効果的なゴミ処理と防災対策によるレジリエンス強化・政府の意思決定プロセスへのユース参加の定着等、目覚ましい成果を生んでいる。同プロジェクトの好事例として、ピア・ツー・ピア学習ネットワークの構築・リスクに関する学習リソースのデジタル化・ユース主導のリスク低減計画策定・レジリエンスに関するユースの能力構築活動の実施・ゴミ処理システムの強化・人道支援の仕組みとユースの連携強化・行政へのユース参加の定着・社会保障データ管理の強化が挙げられる。同プロジェクトは大勢のユースを参加させることに成功し、ユース女性の参加率も高く、ソーシャルメディアを活用して幅広く意識啓発を行っている。また、いくつかのユース・フェスティバルの開催やユース気候変動対策コミュニティの発足による等、障害を持つユースのeラーニングプラットフォーム利用においても成果を達成した。

### 促進要素と課題:

同プロジェクトが円滑に行われた背景には、MDMC/TGG/様々な政府機関との強力な連携関係・ユースのリーダーシップと参加の重視・デジタルツールとリソースの活用がある。一方、政府が継続的に関与するようにする・包摂的な参加を妨げる障壁を打破する・ジェンダーへの配慮をすべてのプロジェクト活動に効果的に組み込む等、が今後の課題となる。また、ジェンダーに基づく労働の役割分担という複雑な問題を解決に導くことも、このプロジェクトに求められている。

### 提言:

プロジェクトの社会的影響力を今後も確実に拡大させ続けるには、政府の意思決定プロセスにユースが持続的に関与する仕組みを強化するのが望ましい。能力構築活動を強化して、ジェンダーや包摂性に関する特定のニーズに対応する、また、デジタルツール・プラットフォームの活用拡大により、より幅広い層に支援の手を伸ばす、ことも求められる。さらに、ジェンダー分析を組み込んだプロジェクトの計画策定・実施も不可欠であり、ソーシャルメディアの到達状況を継続的に追跡調査し公表していくことが、このプロジェクトの社会的影響力を証明することになる。加えて、ジェンダーに基づく労働分担に取り組むプログラムの開発も求められている。



人道支援の文脈には、GTな社会変革に対する一定の障壁があると同時に、開発の文脈では得られないかもしれない機会も存在する。危機には、規範とジェンダーによる役割を急変させる変化の芽が眠っている。それゆえ、一つひとつの規範の変化が、徐々に力関係やリソースへのアクセス(使用できるか)とコントロール(所有・管理できるか)を変え、意思決定を改善する機会をもたらすことを認め、持続させていくことが重要になる。期間が12ヶ月を超える人道支援プロジェクトでは、女の子の権利を実現し、あらゆる多様性を持つ子ども同士、そしてその中に平等を実現するために、不平等の根本原因に取り組み、力関係を作り直すGTな変化を確実に起こす使命が、私たちにはある。

深刻な緊急事態下の短期プロジェクトであっても、その状況に置かれた人々のジェンダーに関する実際のニーズに応えるジェンダー・アウェアレベルの活動を、最低でも行う必要がある。この際、各文脈のジェンダー分析に基づいたGTの要素と共に、適切なリスク低減策を反映させることが求められる。ジェンダー・アウェアな活動は、GTな変革を実現する土台となるはずである。結局のところ、たとえ人道支援下であっても、可能性がある限り、私たちはすべての活動がGTであることを目指す。以下の事例研究は、緊急事態下でもGTアプローチが可能であり、社会全体に好ましい影響を継続的に与え得ることを強く裏付けている。

## コックスバザールのFDMNキャンプと受入コミュニティに暮らす思春期の男の子とユース男性を対象としたライフスキル教育とエンパワーメントプログラム

国: バングラデシュ

予算: 87万3,573ユーロ

期間: 2014年1月～2024年12月

### プロジェクト概要:

プラン・インターナショナル・バングラデシュは、ジェンダー平等と社会的包摂(GESI)についてUNFPAと行ってきたプロジェクトを反復する形で、2018年からこの12カ月間の人道支援プロジェクトを実施した。同プロジェクトは、バングラデシュのコックスバザールに位置する15のキャンプと4つの受入コミュニティを対象とした。同プロジェクトはプラン・インターナショナル・バングラデシュがテクナフ郡とウキヤ郡の各箇所で直接実施し、その一部はYoung Power in Social Action(YPSA)と連携して行われた。YPSAは現地のユース主導による社会開発組織で、プラン・インターナショナル・バングラデシュから技術サポートを受けていた。同プロジェクトは2024年12月に終了したが、2025年に対象を広げて新たなフェーズを実施する予定である。

同プロジェクトが実施されたロヒンギヤ難民キャンプと受入コミュニティでは、ジェンダー不平等と排除が思春期の女の子と男の子の生活に深刻な影響を及ぼしている。コミュニティでは、伝統的なジェンダー規範と慣習を背景に児童婚や、SRHRサービスがほとんど利用できない等の問題が生じている。女の子は特に脆弱で、暴力や搾取に遭うリスクが高まっている。

文化的/社会的規範が両ジェンダーの行い・考え方に及ぼす影響力は非常に強く、有害な慣習が延々と繰り返されるなかで、成長とエンパワーメントの機会はほとんどないのが現状である。女の子と女性が意思決定プロセスから排除されていることで、そうした不平等は一層強固になる一方で、男の子と男性はジェンダー平等がもたらす便益に気づいていない場合が多く、SRHRやGBV防止に関する議論への関与も十分ではない。思春期の男の子と女の子の間でのジェンダー平等・SRHR・安全な行動に関する知識と意識を向上させる必要が高まるなか、コミュニティ体制の強化と思春期の若者とその家族のエンパワーメントを包括的にすすめる同プロジェクトが実施された。同プロジェクトの主な目的を以下に示す。

- CoCおよびGirls Shine(GS)講習会に参加する思春期の男の子と女の子の、ジェンダー平等・SRHR・安全な行動に関する知識を高め、それらに対する前向きな考え方を促す
- 子ども・思春期の若者・家族を能力強化し、コミュニティ体制を強化することで、女性と子どもへの暴力を含む有害な慣習を減少させる
- キャンプや受入コミュニティに暮らす思春期の男の子と女の子が、自身の生活・身体に対する決定権を持ち、差別・強制・暴力から解放された状態で自身の性について意思決定できるようにする

同プロジェクトの対象者は、思春期の女の子と男の子・女性と男性の保護者・メンターとして活動するユース・ユース/女性/宗教指導者/伝統的指導者を含むコミュニティ住民だった。主な活動として、能力強化、特に思春期の男の子を対象とするCoC講習会と思春期の女の子を対象とするGSカリキュラムが挙げられる。GSカリキュラムは、人道支援下の女の子を対象としたライフスキル教育カリキュラムを提供する国際救援委員会の包括的学習リソースである。現地に適応させたモジュールの形式で実施され、思春期の若者の知識と意識の変化を事前・事後テストで観察した。それに加えて、CoC・GS参加者の保護者を対象とした保護者向けカリキュラムの提供や、コミュニティ指導者・政府関係者へのGBV予防・SRHR・ユースの関与に関する啓発活動等、様々な関係者を対象にいくつかの講習会・研修・メンター講習を実施した。また、同様のテーマでピアサポートが提供できるようにメンター研修を受けたユースの能力強化にも注力した。

### GTの要素:

同プロジェクトは、ジェンダー規範・主体性・状況/社会的地位に重点を置きつつ、ジェンダー影響評価の枠組みにある6つのGT要素すべてをカバーすることができた。また、思春期の女の子と男の子・保護者・コミュニティ指導者を含む主な関係者と、様々なレベルで協働することもできた。加えて、包括的な能力構築ツールとしてCoC・GSカリキュラムの活用注力し、思春期の男の子と女の子の参加者をピアエドゥケーターやユースリーダーへと養成した。同プロジェクトでプラットフォームを通して、園芸・スポーツ・文化イベント等、ユース主導の取り組みに意義のある形で参加することが、彼らのリーダーシップスキルの強化・自信の向上・主体性の促進につながった。プロジェクト期間を通してGTMを複数回用いて、どの程度GTであるか、継続的に評価を行った。

- **ジェンダー規範:** 同プロジェクトは、思春期の若者の参加者をコミュニティの変化の担い手として能力強化することで有害なジェンダー規範に取り組んだ。包括的手法で、CoC・GSモジュールを用いたライフスキル教育講習会を実施し、思春期の若者と保護者がGBVと思春期の若者のSRHに関する議論に積極的に参加した。同プロジェクトは、保護者と思春期の若者の世代間対話やコミュニティレベルでの提唱活動の場を設けることで、有害な慣行と闘い、有害なジェンダー規範に挑み、ジェンダー平等を促進するための家族・コミュニティの支援体制を強化した。また、同プロジェクトは、包摂と意思決定の分担に重点を置いた共同会議と講習会を女の子と男の子を対象としたHook活動・男性と男の子向け関与講習会・プログラム参加者の家庭訪問等、コミュニティの関与を促す活動を実施した。加えて、プログラム参加者と定期的な振り返り・評価を行うようにし、活動の効果的な実施につなげた。メンターとしてピアサポート活動を促すユースを能力強化することも、コミュニティ内で前向きな社会的規範と行動を促し持続させるための環境づくりに役立っている。
- **主体性:** 同プロジェクトは、意思決定プロセスや焦点を絞った活動に女の子とユース女性が積極的に参加できるようにして、主体性の向上を促した。GSカリキュラムに基づく包摂的な会議と講習会は、女の子が有意義な形で参加できる場となった。また同プロジェクトは、園芸・スポーツ・文化イベント等、ユース主導の取り組みに彼女たちを巻き込むことでも主体性の向上を促し、リーダーシップスキルを育んだ。GS講習会その他の包摂的活動を通して、彼女たちは自信を持って自分の意見を述べられるようになり、自分たちの権利とウェルビーイングに関する議論に積極的に関わるようになった。このプロジェクトで保護者向け講習会を実施したことで、女の子たちを支える環境づくりがすすみ、彼女たちは伝統的なジェンダー規範に挑む力がつき公平に扱われていると、実感できるようになった。



- 男の子・男性との取り組み:** 男の子と男性は、包摂的な活動に関与させることでジェンダー平等・安全で前向きなSRHR行動・GBV防止を積極的に推進した。CoC講習会に参加したことで、思春期の男の子のこうした分野の知識が深まり、前向きな考え方を示すようになった。スポーツ・文化イベント・ユース主導の園芸・思春期の男の子/コミュニティ住民/コミュニティ指導者間の世代間対話・男の子と女の子を対象としたHook活動といった他の包摂的活動が彼らの関与を支え、持続させた。思春期の男の子はジェンダー平等がもたらす便益と有害なジェンダー規範の負の影響を強く認識するようになり、変化に向けて共に活動し提言していく役割を次第に担うようになった。これは、女の子と女性のエンパワメントを支える環境をつくり両ジェンダーが生活のあらゆる面で平等に参加できるようにする上で極めて重要である。
- 状況と社会的地位:** 同プロジェクトでは、女の子と女性がコミュニティに積極的に参加することで、彼女たちの権利と機会が促進され、彼女たちの状況と社会的地位が向上した。CoC・GSプログラムを修了した思春期の男の子と女の子は、プロジェクトの取り組みに変化の担い手として参加し、ユース主導の活動等、コミュニティで前向きな行動を促しつつある。ピアサポート活動のファシリテーター研修を受講したユースもメンターとして、コミュニティで前向きな社会的規範と行動を持続・促進する土台となる環境づくりに大きく貢献した。こうした形で参加することで、彼らはコミュニティのユースリーダー/ロールモデルとして定着し、リーダーシップスキルが磨かれ、自身を高め、彼らの社会的地位も向上した。
- 包摂と多様性:** 同プロジェクトでは、コックスバザールのロヒンギヤ・コミュニティと受入コミュニティのニーズを把握し、その対応を通して10歳～19歳の思春期の若者の多様な集団の包摂を実現した。同プロジェクトでは、リソースへのアクセスと有意義な参加に存在する年齢・ジェンダーをめぐる障壁に対する取り組みに加え、ある目的から障害を持つ人びとの関与を促した。各調査対象グループに対し、Washington Group questionnaire(WGQ)を用いた調査を行い、各々に特有なニーズを特定。それを反映した報告書のフォーマットを作成し、こうした集団のニーズへの対応とモニタリングを常に行えるようにした。
- 実現に向けた環境づくり:** 同プロジェクトは、コミュニティや意思決定プロセスへの影響力を持つコミュニティ指導者や関係者を積極的に関与させることで、ジェンダー平等の実現に向けた環境をつくった。特定のフォーカスグループ・ディスカッション(FGD)・啓発講習会・コミュニティ住民/保護者/宗教指導者/他の影響力を持つ人物との能力強化活動・キャンプ責任者との話し合い等で関係者の関与を強化した結果、思春期の若者の問題に対する意識が高まり、有害なジェンダー規範と慣行に自ら挑み、ジェンダー平等に向けた変革を後押しするようになった。これをさらに進めるため、包摂の実現に影響する政策の土台としてWGQの調査結果を活用して、障害者の包摂も含むジェンダー平等に向けたコミュニティレベルでの提唱活動が行われた。

### 促進要素と課題:

キャンプには、強い宗教的保守主義・SRHRに対する先入観・既存の文化的規範が存在し、教育水準や識字率も低いいため、大きな具体的成果を得るのは難しい。SRHRに対する人びとの感じ方・考え方を動かし変化させるには長期間を要することを考えれば、短期間でプロジェクトの目標を達成するのは無理がある。別の課題として、各キャンプのニーズ評価の実施と活動の実施前に難民救済・帰還委員の承認が必要なお役所的手続きも沢山あった。キャンプ内で女性ファシリテーター・ボランティアを確保するのもきわめて困難だった。文化的規範・児童婚・女性の移動に対する社会的制限が彼女たちの参加を阻む壁となり、ピアファシリテーターとして訓練を受けたユース女性の多くが、家族の圧力や児童婚等の障壁に直面し、プログラムを辞めざるを得なくなることも多い。同じキャンプ内での移動を家族が制限することも多く、採用して辞めずに続けさせるのはさらに難しくなる。

だが、困難は生じたものの、同プロジェクトは文化に配慮した適切な啓発・意識向上活動をしっかり行うことで具体的な結果を得ることができた。定期的な対話・協議・振り返り活動を通して関係者が効果的に関与することが、コミュニティからの提案を重視・考慮することにつながった。

GTのプロセスを踏まえ、成果を出すための能力を身につけるため、コミュニティとユースのボランティアを対象としたリフレッシュ研修が定期的に実施された。

### プロジェクトの具体的な成果と好事例:

同プロジェクトの実施中、困難に直面しながらも著しい変化が見られた。多様な思春期の女の子と男の子とその保護者の能力開発・世代間対話・関係者の関与強化・ジェンダー平等/SRHR/GBV予防/前向きな行動に関するコミュニティレベルの提唱活動を通して有害なジェンダー規範と慣行に包括的に取り組むことで、プログラム参加者の主体性が高まり、彼らの状況と社会的地位が向上した。これが後押しとなって、彼らは、園芸・スポーツ・文化イベント・Hook活動・保護者やコミュニティ指導者との世代間対話等、ユース主導の活動に積極的に参加できるようになった。同プロジェクトは、文化に配慮した適切な啓発・意識向上活動によって、リソースへのアクセスや有意義な参加を阻む年齢・ジェンダー・障害に関連する障壁に取り組むことができた。ユースのエducーターはピアインフルエンサーとして訓練・動員されることでリーダーシップスキルと自信を高め、コミュニティでのリーダー/ロールモデルとして社会的地位を向上させることができた。

同プロジェクトは、様々なレベルであらゆる関係者の関与を実現した。参加が有意義なものとなるよう、学習講習会・包摂的な話し合い・世代間対話・ピア講習会等様々なプラットフォームが設けられた。WGQの活用と定期的な振り返りにより、目的にかなった参加者選定を行い、包摂性を確保した。同プロジェクトは、対象となる思春期の女の子と男の子の包括的な能力構築ツールとしてCoC・GSカリキュラムを活用し、彼らがピアインフルエンサーやユースリーダーとなることを可能にした。加えて同プロジェクトでは、ジェンダー平等・GBV・思春期の若者のSRHRへの前向きな考え方等、思春期をめぐる主な課題について宗教指導者を含む公式・非公式のリーダーに働きかけたことが、思春期の若者の成長を支え、促す環境づくりにつながった。

### 提言:

同様の人道支援プロジェクトでGTな取り組みを拡大するための主な提言を以下に示す。

- ・ 思春期の若者に特化して設計された持続可能な取り組みであるCoCモジュールを、対応策に組み込むことが望ましい。CoCの取り組みは、各キャンプ内の各区画、全区画で実施するとよい。
- ・ 女の子と男の子が共に参加する包摂と意思決定の分担に焦点を当てた話し合いと学びの場であるHook活動を組み込む。Hook活動は、思春期の参加者同士をつなぎ、文化的保守主義という文脈で彼らが交流し、有意義な意見交換を行う場となる。
- ・ コミュニティでの世代間対話等、思春期の若者と主なコミュニティ指導者をつなぐ活動を増やす。
- ・ 活動中は、緊急事態下でのジェンダー(GIE)に関する訓練を受けた専門職員を十分に配置する。現地の状況に適応可能な革新的な手法・取り組み・知識を導入し得る他国のジェンダー専門家の採用を検討する。
- ・ 危機が長期化した場合も、GTな活動に必要な能力を高める研修・ワークショップ・メンター制度・コーチング講習会を実施して、プロジェクト担当職員・ボランティアに必ず技術的サポートを継続的に行う。



## プログラム参加者の声:

「CoC講習会の参加前に、ファシリテーターがアンケートでいくつか質問をしてきましたが、どう答えればいいのかわかりませんでした。でも、CoC講習会に参加して、これまで間違っていたことをしてきたことに気づき、より注意を払うようになりました。講習会では、身体的/精神的虐待・性的虐待・差別・ジェンダー平等・児童婚・SRHR・薬物乱用の有害性・人身取引・力関係・メンタルヘルスサービス等、幅広い社会問題について議論しました。講習会で得た学びから、自分の多くの悪い習慣を変えることができました。今では、公共の場での女性に対する軽い嫌がらせや性的なからかいが重大な処罰の対象となる犯罪であることを理解しています」

- 17歳の思春期の男の子、CoCセッション参加者、キャンプ9

「家族の皆が、月経は秘密にすべきだと考えていて、月経用の布の天日干しも許されず、私はそれがあまり好きではありませんでしたが、気まずかったし、私の声に耳を傾けないかもしれない彼らにどう伝えればよいのかと悩んでいました。そこで、私はGSでメンターをしているユースの所に行って、母を保護者向け講座に参加させるようお願いしました。そして今では、家での生活が日々楽になってきています」

- 19歳の思春期の女の子、GSセッション参加者、キャンプ20

「私は子どもたちの求めることがあまりにも多いので、邪険に扱っていました。キャンプ生活では子どもたちの声に応えることができませんでした。隣人から保護者向け講習会の話を聞き、このグループに参加しました。思春期の女の子と男の子の発達に関する講習会で、思春期の若者の身体・精神・心の変化について学び、思春期にはそうした行動を取ることを知りました。今では子どもたちの話を聞いてきちんと向き合うことで、関係が良くなりました」

- Hasmot Ullah(48歳)、保護者向け講習会参加者

## 台風Raiの緊急対応におけるSRHの人道支援ニーズと優先事項

国: フィリピン

予算: 52万4,629ユーロ

期間: 2022年1月19日～2022年6月30日

### プロジェクト概要:

プラン・インターナショナル・フィリピンは、レイテ島を拠点とする女性の権利組織WEAVERSとユース主導のピアエデュケーターネットワークY-PEER Pilipinasという2つの現地組織と連携して、国連中央緊急対応基金に認可された緊急支援活動の一環として人道支援プロジェクトを実施した。同プロジェクトUNFPAの資金提供を受けて、フィリピン・レイテ島南部の村々と支援困難地域で巨大台風ライで被災した住民の生殖の健康とジェンダー関連のニーズに対応する支援を重点的に行った。同台風は、(1)保健医療サービスが利用できないため、安全な分娩が行えないリスクの高まり、(2)家族計画(FP)用品・サービスが十分活用できないために望まない妊娠が発生する懸念、(3)思春期の女の子が避妊策の用いられない性行為・性暴力・望まない妊娠に遭遇するリスクの高まり、(4)生きていくために不可欠な水・食料・現金を得る必要がもたらす性的搾取・虐待をはじめ、他にも様々な悪影響を女性と女の子にもたらした:

同プロジェクトの全体目標は、女性・女の子・障害を持つ人・他の危機に瀕している人の特有のニーズに対応するため、SRHのための救命サービスと、GBVの減少・対応に向けた多部門連携サービスへのアクセスを中断させずに継続することだった。主な活動としては、健康・就労支援現金給付・(女の子の生活必需品をセットにした)尊厳キットの配布・太陽光ランプ/ラジオの配布・生殖に関する保健医療活動(RHMM)と技術サポートがあり、こうした支援を通して、各レベルのSRHとGBVの対策メカニズムとGBV(被害者のための)紹介制度が有効活用・強化され、地域・州レベルでSRHとGBVに関連したサービスが連携して行われるようになった。

### GTの要素の分析:

6カ月間に及ぶこの人道支援プロジェクトは、ジェンダー規範・状況と社会的地位・主体性・実現に向けた環境づくりを中心に6つのGT要素すべてをカバーすることができた。現地の女性組織との連携により、プロジェクト設計は参加型プロセスを用いた迅速ニーズ評価の結果に基づいて行われた。それによって、台風がジェンダー面にもたらした影響をあぶり出し、新たなニーズ・変化するジェンダー的役割・対処戦略を特定することができた。

その結果、最も疎外された集団、特に多様な女性・思春期の女の子の知識・経験・スキルが認められ、それを基にテーマに沿った活動が策定されて各々が主体的に生活や人生を取り戻す後押しとなった。実施中はGTMを用いて、どの程度GTであるかを測定した。



- **ジェンダー規範:** 同プロジェクトは、能力構築・提唱活動・働きかけ戦略により、既存の有害なジェンダー規範に影響を与えることができた。同プロジェクトは、コミュニティ指導者と女性・コミュニティを基盤とするユース主導の組織と連携し、コミュニティ保健員を巻き込んで、コミュニティ対話・啓発講習会・研修に至る規範の変化を促す一連の活動を展開した。また、女性にやさしいスペース(WFS)としてテントを設置し、訓練を受けた女性ファシリテーターがそこでGBVの防止と子どもの保護(CP)に関する啓発講習会を実施した。加えて同プロジェクトは、計画的にユース男性のピアエデュケーターを養成し、彼らが男の子とユース男性と共に、また彼らを対象にした情報提供・啓発講習会を実施できるようにした。その取り組みは、男性性・性・ジェンダーへの配慮をめぐる有害なジェンダー規範への対策として有効であることがわかった。
- **状況と社会的地位:** 同プロジェクトは、物質面・経済面・構造面でのリソース・支援の提供と、行動と規範に影響を与える取り組みの両面で活動を展開した。その結果、ジェンダー面での女性と女の子の実際のニーズに対応した取り組みができ、彼女たちの現状と社会的地位の向上につながった。同プロジェクトは、台風による社会/経済的影響を軽減するため、危機的状況に置かれた女性と女の子の差し迫ったニーズに以下の形で対応した; 妊産婦と女の子の健康支援のための現金給付; 水循環型手洗い設備の設置; WFSテントの設置による女性と子どもが安全に過ごせる空間づくりと、情報提供と啓発講習会ができるWFSファシリテーターの養成; 女性と女の子の安全と尊厳を守るための月経衛生管理(MHM)キットの提供、である。CPとGBVに関する通報・紹介手段が文脈に応じて導入され、コミュニティレベルでの話し合いと啓発講習会で周知された。また、このプロジェクトは、産科医療/分娩施設の修復・改修・設備整備を支援し、特に女の子とユース女性によるGBV・SRHサービスの利用を促した。それに伴い、GBV被害者の安全を確保するため、子ども・ユース危機センターの機能強化が行われた。
- さらに、同プロジェクトは医療施設が機能不全に陥っている3地域でRHMMを展開し、計1,110人(68%が女性)にサービスを提供した。RHMMは女性が1カ所で情報とサービス入手・利用できる場所として機能した。



提供されたサービスには、健康相談・メンタルヘルスとこころのサポートサービス・FPに関するカウンセリング・FP用品や他の医薬品の配布が含まれた。RHMMでは、HIVと性感染症(STI)・GBV・紹介手段に関する啓発講習会が実施された。また、子どもにやさしい空間が設けられ、ピアエデュケーターとして活動するユースによる思春期の若者・ユース向けSRHR講習会の実施とMHMキットの配布が行われた。

- **主体性:** 同プロジェクトは、特に多様な女性と思春期の女の子を中心とする脆弱な立場に置かれた集団が実施期間中を通して意義のある形で参加することで、彼らの主体性を高めた。多様な思春期の若者が確実に参加できる包摂的な会議・対話講習会その他の活動が実施された。また、ユースリーダーを含むコミュニティ指導者には、それぞれの集団の代表として多部門会議に参加する資格を与えた。加えて、WFS女性ファシリテーターと、ピアエデュケーターとして活動するユースを対象に、女性の権利・生殖の健康の権利・ジェンダーへの配慮・GBV・紹介手段・リーダーシップスキル・ファシリテーションスキル・思春期の若者の緊急事態下のSRHR(SRHRiE)に関する研修を実施した。WFS女性ファシリテーター228名とピアエデュケーター35名(ユース女性19名・ユース男性13名・トランスジェンダーのユース3名)の計263名のファシリテーターが研修を受け、コミュニティ啓発活動・ピアエデュケーション・情報普及等、自発的な意思に基づいた活動と提唱活動を継続した。満たされていないニーズに対応し、災害の社会経済的影響を軽減するため、ファシリテーターには現金による奨励金が提供された。
- **実現に向けた環境づくり:** 実現に向けた環境をつくるため、同プロジェクトはフィリピン国家警察女性・子ども保護センターの警察官・州社会労働開発局のソーシャルワーカー・市保健所の医師・精神科医/心理測定士という複数部門で構成された州政府の任命したチーム(MDT)を始動・強化した。MDTは、CP・GBVの被害者を中心に支援・保護サービスを一カ所で提供する窓口として機能している。MDTに属するメンバーはユニセフとの連携による訓練を受けた。MDTは、地理的に孤立した不利な地域(GIDA)でも活動を展開して、移動が困難な被害者にも対応できる機動力を備えていた。また、地方政府機関と医療サービス提供組織の主要職員もRHMMの計画・実施に関与した。

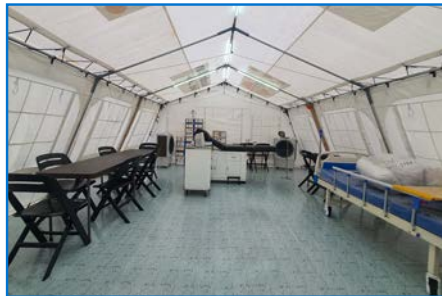
上記の取り組みをさらに後押しするため、南レイテ州知事が発令した州知事令(EO)により、2022年2月、SRHRとGVBに特化した小チームによる支援を行うための災害時緊急対応サービスパッケージ(MISP)が始動した。そのEOにより調整の仕組みが確立され、様々な部門の代表者が定期的に調整会議を開催した。現在、州の生殖に関する健康チームとSRHRに関する小チームによるMISPは、2012年の「責任ある子育てと生殖に関する健康法(RPRH法、RA10354)の下に置かれ、州実働部隊(PIT)に移行している。これは、RPRH法の実施に関して、地元行政組織間や他の関係者間の調整機関として役割を果たしている。

- **男の子・男性との取り組み:** 同プロジェクトは、男性ユースをピアエデュケーターとして養成し、彼らが男の子とユースと共に、また彼らの間に、STI・GBV・CP・紹介手段等に限らず、様々なテーマで情報・啓発講習会を推進した。WFSファシリテーターとピアエデュケーターとして活動するユースが行った、啓発活動・GBVリスク低減活動に参加した男性・男の子は18,867人(南レイテで1,780人、カラガで17,087人)に上った。講習会は、基本的な女性の権利・ジェンダーへの配慮・GBV防止・紹介手段に関する内容で行われ、GBVの有害性やその防止方法を含むジェンダー平等に関する男の子と男性の意識向上につながった。
- **包摂と多様性:** 同プロジェクトは、多様な妊婦・母親・思春期の女の子、特にGIDA地域にいる者が、生殖の健康とGBVに関するサービスを利用できるよう支援した。シングルマザーや障害を持つ者等、その中でも特に脆弱な集団への支援に重点が置かれた。その活動を円滑に行うため、女性ファシリテーターと、ピアエデュケーターとして活動するユースの力を活かし、プロジェクト活動実施の支援に当たさせた。さらに、コミュニティ指導者やコミュニティを基盤とする女性・ユース・LGBTQ・障害を持つ人びとの既存の組織と連携することで、包摂と多様性を反映した。

## 促進要素と課題:

緊急性の高い人道支援の文脈では活動の時間枠が限られていることが大きな問題だった。目標に従って大急ぎで実施にこぎ着ける活動も中には存在した。活動内容が資金提供者によって事前決定されているため、目標を調整する余地はほとんどなかった。GTの手法やGTMの活用について、実施に当たる現地パートナー団体の知識が不足していたため、GTのプロセスを確実に踏むことも困難だった。さらに、コミュニティの関与、特にプログラム参加者を計画段階から巻き込む、また実施後に参加者の意見や不満を集めることも非常に難しかった。実施後モニタリング調査(PDM)実施中は、提案箱の設置や現場での周知、情報・教育・コミュニケーション資材による情報提供等で職員や現地パートナーが努力したにもかかわらず、PDM回答者の83%が、意見や不満の伝え方を知らされていなかったと答えた。

そうした困難はあったが、派遣された緊急対応チームに、社会的準備(開発援助において現地住民が外部の支援を受けながら自己の意思決定や参加を促進するためのプロセス)・プログラム参加者の選定・活動実施にあたって包摂的な参加型を採るための専門知識と経験があることは、プロジェクトを進める力となる。さらに、いくつかの自治体が過去にプラン・インターナショナル・フィリピンの活動地域だったことで、プロジェクト地域を熟知していることも役立った。当該地域内には十分なネットワークと人脈が存在し、それが地元自治体と良好な関係を築く助けになった。



## プロジェクトの具体的な成果と好事例:

困難はあったものの、実施されたPDMからは好ましい成果が認められた。全体として、活動の有用性・利用可能性・尊厳の守られた安全な実施方法に関して高い満足度が得られた。プロジェクト期間は短期間であったが、実施中に特にジェンダーに配慮した活動への参加率向上や、小グループ会議・多部門間会議等の意思決定機関に住民代表が出席する等、目に見える変化が確認された。同プロジェクト活動は、緊急事態下で高まる妊娠合併症発症リスク・CPの問題・GBV等、女性が実際にジェンダー面で感じているニーズに対応することで、影響下にある脆弱な集団の状況改善に貢献した。同プロジェクトは関係者との連携を強化し、脆弱な集団、特に多様な女性・ユース女性・女の子がSRHR用品/医薬品・CP・GBV被害者を中心に据えたサービスを利用できるようにして彼女たちの生存に不可欠なSRHRサービスへのアクセスを向上させ、リスクへの対応と低減を図った。

GIDAにいる被害者の場合は特に移動が困難だというアクセス面の問題には、移動型MDT・RHMM・WFSとCFSを導入して対応した。WFSの女性ファシリテーターと、ピアエデュケーターとして活動するユースが中心となって、ジェンダー平等とGBVの防止・対応を含む、保護に関する主要テーマに関する啓発講習会を実施した。同プロジェクトでは、ピアエデュケーターとして活動するユース男性に研修を実施して彼らを巻き込むことで、男の子とユース男性と共に、彼らの間に情報提供・啓発講習会を促し、それが有害な男性性・性・ジェンダーへの配慮をめぐるジェンダー規範に影響を与える上で効果的なことがわかった。また、妊産婦を対象とした健康支援のための現金給付も、災害がもたらした社会経済的影響への対策として実施された。

必須サービスと情報に対するアクセスが向上したことで、プログラム参加者が自身の身体と生殖に関する選択について情報に基づいた決定を下せるようになり、彼らの主体性が向上した。SRHRサービスが利用できることで、妊娠合併症や妊産婦死亡等、特定のジェンダーの健康リスクを回避できた。包括的なSRHRサービスの提供は、カウンセリングや法的支援を提供するために確立された紹介ルートで、GBVの被害者を必要なケアと支援につなげ、GBVリスクを抑制する一助となっている。同プロジェクトで行われた各取り組みは、目標を達成する上できわめて重要なジェンダー・ニーズに明確に対応しており、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けたGTな社会変革を前進させるものとなっている。



## 提言:

同様の人道支援プロジェクトでGTな取り組みを拡大する上で重要な提言を以下に示す。

- 迅速なジェンダー分析を実施して、影響下にある人びとが実際に感じているジェンダー的なニーズを長期的視点でさらに的確に把握することが、人道支援の既存の取り組みと緊急対応計画の強化につながるはずである。
- 対応活動中は、(災害時にジェンダーの視点に立って権利を尊重する)GIEとSRHRIEに関する訓練を受けた専門職員を十分配置する。
- 緊急事態下におけるGTアプローチについて現地実施パートナーの能力を強化する。
- 緊急時の計画と対応におけるGEIを、計画・対応・復興という、より広範な枠組みに組み込み定着させる。
- 現地・コミュニティを基盤とする組織の能力を強化する。女性と疎外された集団のリーダーシップ能力に注力し、現地の女性組織とコミュニティを能力強化する。
- プロジェクトのあらゆる段階で、コミュニティの参加者が有意義な形で参加・関与するための方法とプラットフォームを必ず提供する。
- 様々なプラットフォームと手法を用いて提唱活動と働きかけを展開することで、長期的な行動・社会的規範の変化を促進する。男の子と男性が有害なジェンダー規範や家父長制的な考え方に挑むよう促す。
- 長期的な優先事項としてGBVに取り組む。GBV対策を包括的なSRHRサービスの一部として組み込み、ジェンダーの視点に立った法的枠組み・司法制度と連動してGBVリスクの低減・対応を図る。

## PDMで挙がったプログラム参加者の声:

「出産後は1フィリピンペソのお金もなく一まさに一文無しでした。夫は肉体労働で働いているだけで稼ぎは足りません。その上、子どもが喘息で、薬は地区の支援に頼るしかありません。なので、現金給付をいただき、本当に感謝しています。それが、台風で被災した私たちを支えています。それなしでは、生きていけるかわかりません」

- Jean、不就労、夫は非正規の仕事で就労

「今まで夫と私は、子宮内避妊器具や他の避妊法は効果がない上に危険だとも思っていました。でも、保健医療活動をしてくださった方々のおかげで、避妊具を使って妊娠を回避することが、厳しい生活を送る私たちにとっていかに有効であるか理解することができました」

- Lisa、FGD参加者、PDM

「避妊法はカレンダー法しか知らなかったのので、コンドームの使い方を学びました。講習会は性教育のようでした。また、10代の妊娠事例が大変多いため、ユースは性教育を受けて妊娠を回避する方法を知るべきだという意見が共有されました」

- Kenneth、FGD参加者

## 詳細に関しては、下記にお問い合わせください

### 開発プロジェクト:

Kusalin Wongnamkob、APACジェンダー・包摂担当顧問

[kusalin.wongnamkob@plan-international.org](mailto:kusalin.wongnamkob@plan-international.org)

### 寄稿者:

- Rani Hastari、GESI専門家、プラン・インターナショナル・インドネシア  
[rani.hastari@plan-international.org](mailto:rani.hastari@plan-international.org)
- Maulinna Utaminingsih、Urban Nexusプロジェクトマネージャー、プラン・インターナショナル・インドネシア  
[maulinna.utaminingsih@plan-international.org](mailto:maulinna.utaminingsih@plan-international.org)
- Dyah Yunitaningrum、Urban Nexusプロジェクト担当職員、プラン・インターナショナル・インドネシア  
[dyah.yunitaningrum@plan-international.org](mailto:dyah.yunitaningrum@plan-international.org)
- Phonsavanh Souvannasy、GESIマネージャー、プラン・インターナショナル・ラオス  
[phonsavanh.souvannasy@plan-international.org](mailto:phonsavanh.souvannasy@plan-international.org)
- SamAth Teng、GEI専門家、プラン・インターナショナル・カンボジア  
[samath.teng@plan-international.org](mailto:samath.teng@plan-international.org)

### 人道支援プロジェクト:

Abigail Genito、APAC GIE専門家

[abigail.genito@plan-international.org](mailto:abigail.genito@plan-international.org)

### 寄稿者:

- Shai Aung、CoCプロジェクトマネージャー、プラン・インターナショナル・バングラデシュ  
[shai.aung@plan-international.org](mailto:shai.aung@plan-international.org)
- Telesforo Laplana、緊急事態対応マネージャー、プラン・インターナショナル・フィリピン  
[telesforo.laplana@plan-international.org](mailto:telesforo.laplana@plan-international.org)
- Twyla Anne David、GEI-CYE担当ポートフォリオマネージャー、プラン・インターナショナル・フィリピン  
[twyla.david@plan-international.org](mailto:twyla.david@plan-international.org)





Until we are all equal

プラン・インターナショナル・アジア太平洋地域

12th Floor, 253 Sukhumvit 21 Road (Asoke)  
Klongtoey Nua, Wattana, Bangkok, 10110

Tel: +66 (0) 2 259 8284 7

<https://plan-international.org/asia-pacific/>